

作成日： 令和 5 年 3 月 10 日

令和 4 年度第 10 回 高松圏域自立支援協議会 運営部会議事録

日付	令和 5 年 3 月 10 日
時間	9 時 15 分～11 時
開催会場	かがわ総合リハビリテーション福祉センター研修室
参加機関等	香川県障害福祉課、香川県立高松養護学校、高松市健康づくり推進課精神保健係、高松市障がい福祉課、直島町住民福祉課、かがわ総合リハビリテーション成人支援施設、障害者就業・生活支援センターオリーブ、障害者地域生活支援センターほっと、障害者生活支援センターたかまつ、障害者生活生活支援センターあい、障害者相談支援センターりゅううん、発達障害者支援センターアルプスカがわ、地域生活支援センターこだま、一般社団法人 garyu、地域活動支援センタークリマ、高松市障がい者基幹相談支援センター中核拠点 順不同 計 18 名

議題 1：テーマ 4 就労支援をより効果的なものにするための取り組みに係る協議

議事	<p>○就労支援に求められていること</p> <ul style="list-style-type: none">・社会情勢の変化に合わせて IT の活用、在宅雇用等働き方の選択肢が増えてきた。・一般高校卒業の発達障害者は離職率が高い。2 次障害で悩む方もいる。就労支援だけでなく、生活訓練等で生活スキル向上も必要なケースが多い。・就労移行支援だけでなく B 型で時間をかけて訓練できる環境が必要な場合もある。B 型事業所でも IT 関係の訓練が出来る場が必要。・就労支援で共通したアセスメントが必要。・熊本の情報発信方法の媒体を紹介。障害者支援のプラットフォーム。得たい情報を得やすい環境が大切。・B 型事業所はコロナ禍で工賃が下がった。共同受注で仕事を受けると
----	---

	<p>いうことが増えるのではないか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・就労を希望する障害者と就労・障害福祉サービスの選択に係る支援の創設について。 ・就労系のサービス管理者研修で新しい情報を共有する必要がある。 <p>【質問、意見等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・就労未経験者が在宅利用のB型事業所を利用する場合、就労アセスメントはどのようにおこなうのか。当事者とB型事業所担当者が会わずにネット上の面談だけで進んでいくのか。 <p>→在宅就労もコミュニケーション能力が求められる。対面での関わりも大切にする必要がある。B型やA型は利用期間が長いのでステップアップしていくことが望ましい。在宅利用から開始するが、通勤しての就労を選択される方もいる。</p> <p>県外では在宅利用時に必要な月1回の面談を実施していない事業所もある。</p>
--	---

<p>議題2：テーマ5 ピアサポーターと活動推進のためのお取り組みについて係る協議</p>	
<p>議事</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○香川県精神障害者ピアサポーター登録・活動について 別紙あり <ul style="list-style-type: none"> ・現在33名の登録者 ・統合失調症、うつ病、パニック障害、発達障害など ・ピアサポーター交流会を年数回開催。 ・養成研修だけでなく、ピアサポーターについて知るための会を各圏域で開催することを検討中。 ○ピアサポート活動普及啓発について <ul style="list-style-type: none"> ・活動希望者向け、支援希望者向けの2パターンのチラシを作成中。 ・香川県の登録で活動する方は精神障害者に限るが、高松市ピアサポーターバンクは精神障害以外の登録もできるため、全ての障害者が活用できるように修正した。 ・チラシ完成後は関係機関へ持参し、活用していただく予定。 ・身体部会からチラシ作成時にアドバイスをさせていただいた。現在身体障害のピアサポーターは高齢化も進んでいる。今年度新たに登録されたピアサポーターも多かったと聞いているが、活躍の場はまだ少ない。

○高松圏域ピアサポーターバンクについて 別紙あり

- ・33名（精神障害者17名、発達障害者5名、身体障害者11名）
- ・県がおこなうピアサポーター養成研修受講者で登録希望者が高松圏域ピアサポーターバンクに登録できるシステムとなっている。交流会は高松圏域独自でおこなっている。
- ・今年度の活動の一例を報告・ピアサポーターになりたい方向けの体験談発表もおこなった。
- ・ピアサポーターへの依頼は支援者からしてもらい流れとなっている。
- ・ピアサポーター同士だけで面談をすることは無い。何かあったときに助けられるよう支援者を挟んで関わっている。
- ・相談例の紹介。
- ・登録者でマッチングしない場合が他機関に相談することもある。

【質問・意見等】

- ・精神障害者のピアサポーターに統合失調症家族教室で体験談を話していただいた。市の精神保健事業と絡めて活用していきたい。個別訪問を継続してくださっているピアサポーターさんもいる。個別相談はうまくマッチングすると継続相談となっている。
- ・担当している精神障害者は会ったことが無い人に会うことに恐怖感を抱きやすい。ピアサポーターだけの面談ではなく、支援者も同席すると聞き、活用できるのではないかと感じた。
- ・個別面接で距離がうまく取れず一方的に言われたらどうしよう、話が続かなかつたらどうしようと不安になってしまう。相談者のことをよく知っている支援者に同席していただくことが望ましい。相談者が不安を感じやすい方も支援者に同席していただき、雑談方入することもある。
- ・県の登録活動の中で高松圏域の取り組みはわかった。他圏域の取り組みはどうなっているのか。また、圏域での取り組みにすることを目標としているのか。
→今後どのように整えていくか検討が必要。
- ・ピアサポーター側のキャパはどの程度か。知的障害者のピアサポーターの取り組みはあるか。
→発達障害者の登録はあるが個別支援はまだおこなっていない。原稿を準備いただき体験談の発表をしていただいた。
知的障害者当事者に養成研修で体験談発表を依頼したことはある。
これまでのピアサポーターの話が出るたびに知的障害者でピアサポ-

	<p>ターになれる方をイメージしてきたが担い手が少ない。一般就労された知的障害者に仕事のこと、住まいのことの体験談発表を依頼したことがあった。コロナの関係で実現しなかったが、自分一人ではできないが、インタビュー形式で受けていただけることになった。自分一人で活動に参加することは難しいが、支援者が間に入ることで出来ることがある。育成会とも連携して考えていきたい。</p>
--	--

<p>議題 3：各部会からの報告</p>	
<p>議事</p>	<p>○就労支援部会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・雇用セミナーを対面、Zoom で開催した。企業数が少なく今後の広報方法を検討したい。 <p>○精神保健福祉部会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ピアサポーターのパンフレット作成が最終段階である。 ・医療と福祉の連携会議について次年度の開催を調整中。連携したい医療機関に出向き開催することも検討している。 <p>○相談支援部会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2 月、3 月の部会で今年度の振り返りと来年度の取り組みを協議している。 ・来年度はグループスーパービジョンを再開する。 <p>○身体障害者支援部会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・起震車体験会を3月8日に朝日園にて実施した。開催場所の利用者だけでなく、開催場所の職員や他の入所施設管理者、地域住民の参加もあった。来年度他の入所施設でも起震車体験会を実施いただけるようお声かけしていく。現在の起震車は車椅子で体験でき、震度5以上では車椅子が浮く等実際に体験することでわかった。 <p>○知的障害者支援部会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・来年度も意思決定支援・強度行動障害のことが主軸になる。 ・日中サービス支援型グループホームの運営について、支援者の質について話題に挙がるが多かったので協議していきたい。 ・来年度は強度行動障害スーパーバイザーの講師も部会のメンバーに入

	<p>っていただくことで、より活性化を目指したい。</p> <p>○発達障害者支援部会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高校生へのアプローチについて、再度丁寧に聞き取りをおこなうこととした。中学生も対象に入れることを検討中。 ・子ども支援部会と連携した取り組みを検討中。 <p>○こども部会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・来年度の意見集約をおこなった。コロナ禍で未実施となった事業所連絡会を再開したい。 ・直島町の療育体制について再検討していく。 ・医療的ケア部会からお声かけいただいている医ケア児の放課後等デイサービス利用について協議を進めたい。 ・子ども部会で取り組んで欲しい課題を他部会から持ち込んで欲しい。 ・アンケートの公開法を再検討する。 <p>○医療的ケア部会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・来年度はワーキンググループを作り課題解決を進めたい。 ・利用できるサービス提供事業所が少ない、在宅就労時の在宅支援、グループホームでのインスリン対応等、医療的ケア部会だけでは解決出来ない課題も多いと思うので他の部会と連携していきたい。 <p>○居宅サービス事業所連絡会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・来年度は年3回連絡会を開催することとなった。7月11月2月を予定。テーマは「加算について」「移動支援について」「カスタマーハラスメントについて」を予定している。 ・コアメンバー会は別途おこなう予定。
--	--

<p>議題4：事務局より</p>	
<p>議事</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○日中支援型グループホームについて ○意思決定支援の研修について <ul style="list-style-type: none"> ・今年度第2回目を開催し、41名参加された。 ○令和5年度全体会について <ul style="list-style-type: none"> ・5月連休明けに対面での開催を予定。

	<ul style="list-style-type: none">○感染症予防対策の緩和に伴うマスクの着用について○高松市障害支援区分等審査会委員の推薦について○来年度について○今年度各部会予算の使用状況○災害時対応モデルケースの選定について・各部会の進捗状況をメールで共有したい
--	--

高松圏域ピアサポーターバンク ピアサポート活動の実際

高松市障がい者基幹相談支援センター 中核拠点

ピアサポーターバンク（登録者）

◇登録者 33名

- ・精神障がい 17名
統合失調症、感情障害、パニック障がい
強迫性障がい 等
- ・発達障がい 5名
- ・身体障がい 11名
肢体不自由。視覚障がい等

ピアサポーターバンク（活動の内容）

◇体験発表や座談会

- ・入院患者さんへ地域で生活する魅力を届ける活動
- ・地域住民の方への理解を促す活動

◇個別支援

- ・面接や外出同行

◇会議への参加

- ・自立支援協議会の委員として活動

体験談発表等の実際

- ・日 時：令和〇年
- ・ピアサポーター：A氏
- ・対象者：老人介護支援センター相談協力員
- ・内 容：体験談を通じた相談協力員へのメッセージ
隣人として見守り、時には声をかけて欲しいという内容
- ・成 果：地域で生活している精神障がい者の生の声を聴く
ことで当事者も支援者がどのようなかわりをするの
か心配していることが伝わった。

体験談発表等の実際

- ・日 時：令和〇年
- ・ピアサポーター：B氏
- ・対象者：ピアサポート活動に関心のある当事者
- ・内 容：自らのリカバリーストーリーを語る
10分程度でリカバリーストーリーを語り、10分程度質疑応答
- ・成 果：リカバリーの途を歩み、一歩先を歩んでいるピアサポーターの話は参考になると語る参加者が複数いた。

個別支援が始まるまで

- ・ピアサポーター活動依頼は中核拠点で受付
- ↓
- ・依頼に合ったピアサポーターの方へ活動内容の相談（打診）
- ↓
- ・活動依頼を受ける場合は、当該ピアサポーターの了解を得て、依頼者へピアサポーターや支援機関の情報を提供
- ↓
- ・中核拠点担当者が、依頼者とピアサポーターもしくは支援者と連絡をとり、ピア活動を実施できるように仲介。
- ↓
- ・ピアサポーターは活動実施後に「ピアサポーター活動報告書」を中核拠点にメール、FAX、郵送、手渡しのいずれかで送付。（個人情報が含まれる場合は手渡しか郵送に限る）
（ピアサポーター活動を推進していくための参考とします。）

個別支援を行う際の工夫

◇同意書を取る

- ・ピアサポーターが、ピアサポーターの支援者に個別支援における悩みを相談しても良いという同意
- ・ピアサポーターが、ピアサポーターバンクの研修会、報告会等で支援経過を報告しても良いという同意

◇相談者をよく知る支援者に同席してもらう

- ◇相談者、ピアサポーター、相談者をよく知る支援者で話をする形式も可能

どんな効果や良い影響があるの？

- 日常生活や退院への不安を軽減することに役立つ
- 当事者の目線に立った支援が行われる
- エンパワメントされ、目標や希望が持てるようになる

R5 年度高松圏域自立支援協議会目標（案）

- ・「災害時対応」について、モデルケース選定—難計画作成—避難行動訓練とすすめていく。

そのなかで挙がってきた課題について、運営会議を通じて市町と共有する。

（・R6 年度からの新しい部会体制に向けて運営会議で引き続き状況を把握し協議する。）

- ・意思決定支援の重要性について協議会内で理解を促進するとともに、虐待防止、成年後見制度の利用促進など、権利擁護の推進に取り組む。
- ・協議会のことをひろく知ってもらえる取り組みについて運営会議で検討する。